

I 京都府における「環境にやさしい農業」推進基本方針方	1
II 共通技術	
1 土づくりと施肥	5
(1) 基本方針と推進事項	5
ア 土づくり	5
イ 効率的な施肥管理	5
ウ 地域未利用資源の活用	6
(2) 土づくり	6
ア 堆きゅう肥の施用	6
イ 地力増進作物の利用	10
ウ 土壌改良資材（地力増進法の指定資材）の利用	12
(ア) 泥炭	12
(イ) パークたい肥	13
(ウ) 腐植酸質資材	15
(エ) 木炭	15
(オ) けいそう土焼成粒	16
(カ) ゼオライト	16
(キ) パーミキュライト	17
(ク) パーライト	17
(ケ) ベントナイト	18
(コ) ポリエチレンイミン系資材	18
(サ) ポリビニールアルコール系資材	18
(シ) VA菌根菌	19
エ 土づくり肥料の施用	20
(ア) 石灰質資材の種類	21
(イ) 石灰質資材の施用法	21
(ウ) りん酸質資材の種類と施用	23
(エ) けい酸質肥料	24
(オ) 含鉄資材	25
(カ) 微量要素肥料	25
オ 営農的な排水対策	26

(7) 地表排水対策	27
(イ) 地下排水対策 (暗きょ排水)	27
(ウ) 暗きょの施工	30
(3) 効率的な施肥管理	31
ア 肥効調節型肥料の利用	31
(7) 被覆肥料 (コーティング肥料)	31
(イ) 化学合成緩効性肥料	34
(ウ) 硝酸化成抑制剤入り肥料	39
イ 有機質肥料の施用	40
ウ ぼかし肥の製造と施用条件	42
エ 局所施肥	43
(7) 側条施肥	43
(イ) 作条施肥	44
(ウ) かん注施肥	45
(4) 地域未利用資源の活用	46
ア 堆肥化の要点	46
(7) 一般的な堆肥化の要点	46
(イ) 家庭用、業務用生ゴミ処理機とその処理物	49
(ウ) コンポスター (堆肥化容器) による生ゴミの堆肥化	49
(エ) 生ゴミ処理物の肥効	50
イ 腐熟度の判定法	51
(7) 理化学的方法	51
(イ) 簡易な腐熟度判定基準	51
(ウ) 無機態窒素の簡易分析	51
(エ) 発芽試験	52
(オ) 評点法による簡易判定基準	52
ウ 農産物収穫残さの成分	52
エ その他の地域未利用資源の活用事例	54
(7) 剪定枝堆肥	54
(イ) 豆腐かす・コーヒーかす混合堆肥	56
(5) 土壌診断	58
ア 土壌残存の肥料成分を意識する	58
イ 追肥の効果を意識する	60
(7) リアルタイム診断の流れ	60
(イ) 硝酸態窒素の迅速測定法	61
ウ 土壌、有機物からの窒素供給を意識する	62
(7) 速度論的解析法の特徴値	62
(イ) 窒素無機化 (溶出) の解析と予測の方法	63
(ウ) 推定時の留意点	65

(エ) 土壌の物理性にも目を向ける	65
(6) その他	66
ア 代かき時の濁水発生等の防止	66
イ 牛ふん堆肥施用水田におけるメタンガス抑制技術（平成10年度普及 移す成果）	67
ウ 菜種油粕を用いた米づくり（平成4年度普及に移す成果）	67
エ レンゲ後の水稻栽培	68
オ ECセンサー利用による施肥管理システム（土壌診断に基づく適正施肥）	69
2 病虫害対策	70
(1) 病虫害防除の考え方	70
(2) 物理的防除	71
ア 熱による種子消毒	71
イ 太陽熱利用による土壌消毒	72
(7) 施設太陽熱消毒	72
(イ) 露地太陽熱土壌消毒	73
ウ 光質利用による病虫害防除	73
(7) 近紫外線除去フィルム利用による病虫害防除	73
(イ) シルバーマルチ、シルバーテープを利用した病虫害防除	75
エ 色の利用による害虫防除	75
オ 黄色蛍光灯による害虫の被害回避	76
カ 寒冷紗等の被覆、障壁による虫害回避	77
(7) ハウス開口部張りによる虫害の侵入防止	78
(イ) ベたがけ、トンネルがけによる虫害の侵入防止	78
(ウ) 障壁による虫害の侵入防止	79
(エ) ダニがえし	79
(3) 生物的防除	80
ア 性フェロモン利用	
イ 天敵利用（天敵昆虫、天敵微生物、天敵線虫など）	82
(7) 永年的利用	82
(イ) 周期的放飼	83
(ウ) 環境条件による天敵効果増強	87
ウ 拮抗微生物利用	87
エ 弱毒ウイルス利用	88
(4) 耕種的方法	89
ア 気象環境の制御	89
イ 輪作体系の改善	89
ウ 混作、間作	91

エ	対抗植物・捕獲作物	91
オ	田畑輪換、灌水処理	93
カ	作期の移動	93
	(ア) 病害回避	93
	(イ) ウイルス病回避	93
	(ウ) 虫害回避	94
キ	栽培方法の改善	94
	(ア) 水稲	94
	(イ) ダイズ	94
ク	ほ場及び周辺の管理	94
ケ	抵抗性品種の栽培	95
コ	抵抗性台木の利用	97
サ	有機物の利用	98
3	雑草対策	100
(1)	基本方針と推進事項	100
	ア 基本方針	100
	イ 推進事項	100
(2)	雑草害	101
(3)	雑草の発生生態	101
(4)	雑草防除の基本	102
(5)	雑草防除の実際	102
	ア 雑草の予防	102
	(ア) 雑草の侵入防止	102
	(イ) 雑草の潜在量の低下	102
	イ 機械的防除	103
	(ア) 耕うん・耕起	103
	(イ) 刈り取り	103
	(ウ) 手取り除草	103
	(エ) マルチ	103
	(オ) 火の利用	103
	ウ 生態的防除	103
	(ア) 作物競争力の強化	103
	(イ) 被覆植物	104
	(ウ) 輪作・裏作	104
	(エ) 水管理	104
	エ 生物的防除	104

Ⅲ 栽培技術

1 野菜	105
(1) 有機・特別栽培の進め方	105
ア 有機・特別栽培の基本的な考え方	105
イ 輪作	105
ウ 混作、間作	105
エ 品種	105
オ 土壌管理	105
カ 病害虫対策	105
キ 施設栽培	106
(2) 品目別栽培体系	107
ア ナス(千両・山科・賀茂 トンネル早熟)	107
イ ハウス半促成トマト	110
ウ ハウス抑制キュウリ	113
エ トウガラシ(ハウス半促成伏見甘長、万願寺)	115
オ 冬ダイコン	118
カ かぶ(秋～冬穫り)	120
キ キャベツ(秋～冬穫り)	122
ク ハクサイ(秋～冬穫り)	124
ケ ホウレンソウ(秋～冬作)	126
コ ミズナ(秋～冬作)	128
2 水稻	130
(1) 有機・特別栽培の進め方	130
ア 有機・特別栽培の基本的な考え方	130
イ 有機無農薬栽培体系	130
ウ 特別栽培体系	130
エ 栽培体系に関する基本事項	130
オ その他	130
(2) 栽培技術	131
ア 適地	131
イ 土づくり	131
ウ 病害虫防除	131
エ 品種	131
オ 有機無農薬栽培のポイント	131
カ 特別栽培のポイント	131
キ その他	131

(3) 品種別留意事項	131
(4) 栽培体系	132
ア 無化学肥料	133
イ 減農薬・無化学肥料	134
ウ 無農薬・無化学肥料	136
3 豆類	138
(1) 有機・特別栽培の進め方	138
ア 有機・特別栽培の基本的な考え方	138
イ 適地適作	138
ウ 輪作	138
エ 土づくり	138
オ 病虫害防除	138
(2) 品目別留意事項	138
ア 黒大豆（新丹波黒）	138
イ 普通大豆	139
ウ 小豆（京都大納言）	139
(3) 品種別栽培体系	140
ア 大豆：新丹波黒	140
イ 大豆：オオツル	142
ウ 小豆：京都大納言	144
4 果樹	146
(1) 有機・特別栽培の進め	146
ア 有機・特別栽培の基本的な考え方	146
イ 適地適作	146
ウ 土づくり	146
エ 病虫害防除	146
オ 果樹園の雑草対策	146
カ その他	146
(2) 樹種別栽培体系	147
ア ナシ（露地栽培・二十世紀）	147
イ モモ（施設栽培（雨よけ被覆栽培：白鳳系）	149
ウ ブドウ（施設栽培（雨よけハウス栽培：大粒系）	151
5 茶	153
(1) 有機・特別栽培の進め方	153

ア 有機・特別栽培の基本的な考え方	153
イ 土づくり	153
ウ 肥料の流亡防止対策	153
エ 病害虫対策	153
オ 茶園の雑草対策	153
(2) 栽培別留意事項	154
ア 露天栽培（茶（煎茶）、弧状仕立て）	154
イ 覆い下栽培（茶（玉露、てん茶）、自然仕立て）	156
6 飼料作物	158
(1) 有機・特別栽培の進め方	158
ア 減農薬・減化学肥料栽培の基本的な考え方	158
イ 土づくり	158
ウ 病害虫対策	158
エ 雑草対策	158
(2) 草種別栽培体系	159
ア トウモロコシ、ソルガム	159
イ イタリアンライグラス	161
ウ 混播牧草（永年性）	163
IV 有機農産物及び特別栽培農産物に係る表示ガイドラインについて	
1 原則的な考え方	165
(1) ガイドラインの対象品目	165
(2) 使用する資材選択の考え方（原則論）	165
(3) 資材選択の考え方（例外的な規定）	166
2 使用できる資材（各論）	166
(1) 農薬	
(2) 肥料、土壌改良資材	167
(3) 使用が好ましくない（好ましい）資材とその考え方	167
V 現地事例	
1 アイガモ水稻同時作（中江農家組合 京北町中江）	171
2 減農薬米「れんげ米」の生産・販売（JAれんげ米部会 園部町全域）	

3	地域ぐるみで減農薬減化学肥料による水稻栽培 (集落米生産者 精華町北稻八間)	172
	173
4	農水省ガイドラインを目標とする農産物生産 (「京」有機の会 京都市全域)	173
	174
5	天敵利用による果菜類の減農薬栽培 (北山緑友会、洛北農業クラブ 京都市北区)	174
	174
6	トマトの減農薬無化学肥料栽培 (御牧野菜研究会 八幡市、久御山町)	174
	174
7	土づくりと野菜類の直売 (JA丹波町丹波高原野菜朝採り有機野菜の会 丹波町)	175
	175
8	フェロモン利用によるネギの減農薬栽培 (ネギ栽培農家 京都市伏見区)	176
	176
9	無農薬、無化学肥料による緑茶栽培 (緑茶栽培農家 南山城村童仙房)	176
	176

VI 使用済み資材の回収と適正処理

1	使用済み資材の適正処理	177
2	使用済みプラスチックの適正処理方法	178
3	産業廃棄物管理票制度 (マニフェストシステム)	180